

海の路

Vol. 32

S E A R O A D 2 0 2 0

S E A R O A D 2 0 2 0



会員構成

大阪ブロック

大阪府 泉佐野市
大阪府 泉南市
堺市 阪南市
岸和田市 忠岡町
泉大津市 田尻町
貝塚市 岬町
高石市

岡山ブロック

岡山県 笠岡市
岡山市 備前市
倉敷市 瀬戸内市
玉野市 浅口市

愛媛ブロック

愛媛県 伊予市
松山市 四国中央市
今治市 西予市
宇和島市 上島町
八幡浜市 松前町
新居浜市 伊方町
西条市 愛南町
大洲市

兵庫ブロック

兵庫県 相生市
神戸市 加古川市
姫路市 赤穂市
尼崎市 高砂市
明石市 南あわじ市
西宮市 淡路市
洲本市 たつの市
芦屋市 播磨町

広島ブロック

広島県 大竹市
広島市 東広島市
呉市 廿日市市
竹原市 江田島市
三原市 海田町
尾道市 坂町
福山市 大崎上島町

周防灘ブロック (山口・福岡・大分)

山口県 福岡県
下関市 北九州市
宇部市 苅田町
山口市 大分県
防府市 大分市
岩国市 別府市
光市 佐伯市
柳井市 中津市
周南市 臼杵市
山陽小野田市 津久見市
周防大島町 国東市
上関町 姫島村
平生町

徳島ブロック

徳島県 小松島市
徳島市 阿南市
鳴門市 松茂町

香川ブロック

香川県 三豊市
高松市 土庄町
丸亀市 小豆島町
坂出市 直島町
観音寺市 宇多津町
さぬき市 多度津町
東かがわ市

和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町
和歌山市 広川町
海南市 日高町
有田市 由良町

国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

STU48号就役1周年



父母ヶ浜(三豊市(香川県))

本号の表紙を飾るSTU48号は、国内6番目のAKB48姉妹グループ「STU48」が瀬戸内を拠点に船上劇場というスタイルで歌とダンス・トークから構成する公演を行う船。STU48の4枚目シングル曲のMVが香川県三豊市(海ネット会員)にある「父母ヶ浜(ちちぶがはま)」で撮影されました。約1kmのロングビーチを跨る穏やかな海水浴場。最近、南米ボリビアの「天空の鏡」とも呼ばれる「ウユニ塩湖」のような写真が撮れると話題です。

協議会Webサイト「海の路」



<http://www.uminet.jp/>



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

海の路 Vol. 32

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局
協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>

巻頭言



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長
たなか としあき
佐伯市長 田中 利明

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、山口県宇部市にて開催いたしました瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会令和元年度総会及び第13回瀬戸内海首長サミットには、瀬戸内沿岸各地域より総勢19市町の首長をはじめ、近畿・中国・四国・九州から多くの関係者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本総会では、平成30年度の事業・収支決算報告と令和元年度の事業計画・予算案などが議論され、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興・防災にかける支援制度の活用などについて決議されました。

また首長サミットでは、「瀬戸内・海の路の災害時相互応援の連携強化について」と題して、30年7月豪雨を初め、大阪北部地震、あるいはまた台風21号等々、昨年が大変災害の多い年であったことを踏まえ、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定の実効性を図るためには、どのような取組を進めていけばよいか活発な意見交換が行われました。

さらに、平成30年度の総会において、瀬戸内海のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界に知名度の高いエーゲ海やカリブ海等に並ぶブランド力

令和元年度総会

令和元年5月31日(金)山口県宇部市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会令和元年度総会を開催いたしました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から54市町の首長と会員である各自治体及び地方整備局等の担当者約150名が参加して開催されました。

第1部の総会では、平成30年度の事業・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案等について審議が行われ原案どおり可決されました。また、「我が国におけるクルーズ振興の最新動向」瀬戸内海クルーズの更なる発展に向けて」と題して、塩田本省港湾局産業港湾課クルーズ振興室長よりご講演をいただきました。

第2部では、第13回瀬戸内海首長サミットが18市町の首長参加により開催されました。「瀬戸内・海の路の災害時相互応援の連携強化について」をテーマとして話し合われ、日ごろから顔の見える連携が必要であるなど、活発な議論が行われました。



総会の様子

総会議事

総会の開会にあたり、協議会副会長である市川熙光市長より、「皆様方におかれましては、大変お忙しい中、大勢御出席をいただきました。大変ありがとうございます。また、御来賓として山口県土木建築部長森若峰存様、そして国交省の大臣官房審議官海谷厚志様には大変お忙しい中御参席を賜りました。心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。」

歴代会長

- 平成3年～平成6年
姫路市長 戸谷 松司
- 平成7年～平成10年
坂出市長 松浦 稔明
- 平成11年～平成14年
小松島市長 西川 政善
- 平成15年～平成17年
玉野市長 山根 敬則
- 平成17年～平成18年
玉野市長 黒田 晋
- 平成19年～平成20年
下関市長 江島 潔
- 平成20年
下関市長 中尾 友昭
- 平成21年～平成26年
大竹市長 入山 欣郎
- 平成27年～平成30年
和歌山市市長 尾花 正啓
- 令和元年～令和2年
佐伯市長 田中 利明

の高い、クルーズの海となることを目指す瀬戸内海クルーズ推進協議会が承認されたところであり、これを受けて、第3部では、瀬戸内海クルーズ推進協議会合同会議を行い、メンバー皆さんが連携することによって、瀬戸内海のブランドがさらに強くなっていくことを確認しました。尚一層の連携強化をお願いしたいと思います。

そして、本協議会の骨格事業である「リフレッシュ瀬戸内」には、260カ所を取り組み、約3万8千人ものボランティアの方々にご参加いただき、約220トンのゴミを回収することができました。

美しい海、美しい海岸を自身の手できれいにしていくという意識を高めていく上で、大変意義深いものであると思います。

今後も、瀬戸内・海の路の地域振興に努めるとともに、瀬戸内のおお一層の魅力発信により、更なる会員相互の絆と、連携を図りながら、瀬戸内地域全体の発展に取り組みで参りますので、皆様の益々のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和元年5月31日 山口県宇部市

さて、当協議会の最近の活動であります、「水をきれいに豊かな瀬戸内の海」、これを合い言葉にしまして海岸清掃を多くのボランティアの方々やっておりますリフレッシュ瀬戸内、これもおかげさまで27年目を迎えたわけであり、

また、瀬戸内・海の路を通じた防災ネットワーク機能の強化として、災害時の地域の共助を目的とした瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定は、現在、75会員が締結をいただいております。

本日の第2部の第13回瀬戸内海首長サミットでは、瀬戸内・海の路の災害時の相互応援の連携強化について、これをテーマにいたしております。

さらに、昨年度の総会でもありますが、瀬戸内海のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界に知名度の高いエーゲ海やカリブ海等に並ぶブランド力の高い、クルーズの海となることを目指す瀬戸内海クルーズ推進協議会が承認されたところであります。こうしたことを受けまして、これに続きます第3部であります、瀬戸内海クルーズ推進協議会合同会議を行いますので、皆様方には忌憚のない御意見を賜りたいと思っております。

今回の活動をより活発にするため、皆様方からいただいた御意見を参考にしてさまざまな活動に取り入れたいと思っております。どうかよろしくお願いしたいと思います。

最後に、この総会に当たって久保田宇部市長さんを始め、宇部市の皆様方、また関係各位に深甚なる感謝を申し上げます。私の最初の御挨拶にさせていただきます。

本日は本当に皆さん、ありがとうございました。」との歓迎の挨拶をいただきました。



市川 熙 光市長挨拶

続いて、来賓挨拶として、山口県知事代理の土木建築部長、森若峰存様より、「本日、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会令和元年度総会が、国土交通省の皆様、自治体の皆様を初め、多くの皆様の御出席のもと、ここ山口県宇部市に

おいて盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、皆様の御来訪を心から歓迎いたします。

さて、山口県は本州の最西端に位置しており、南は瀬戸内海、北は日本海、西は響灘と三方が海に開かれ、九州やアジア大陸に近いことなど、地理的条件に恵まれていることから、古くから海上交通の要衝として多くの港湾が発展してきました。中でも瀬戸内海につきましては、近年、ニューヨークタイムズ2019年に行くべき世界の53カ所の第7位に選ばれるなど、その魅力が広く世界に周知されており、来訪外国人観光客を初め、交流人口の拡大が期待されているところでは、こうした中、本県では、インバウンド観光を初めとしたクルーズ振興に力を入れており、昨年度のクルーズ船の県内寄港回数は77回と過去最多となりました。下関港におきましては、16万トンを超える大型クルーズ船の寄港が続いており、本年4月には国際旅客船拠点形成港湾の指定を受けました。また、この宇部港におきましても、この5月に外国クルーズ船が初寄港し、さらに年内にももう2回の寄港が予定されております。

このように、近年、クルーズ観光が盛り上がりを見せておりますが、一方で、今後クルーズ振興をより一層進めていくためには、個々の自治体の頑張りに加え、瀬戸内海各地の相互の連携が重要と考えております。本日はこのような瀬戸内海にかかわる関係者が一堂に会しておられますので、この場を通じて相互の連携がますます深まるものと期待しております。

なお、現在、山口県では観光キャッチフレーズ「YAMAGUCHI MAGIC」のもと、絶景、温泉、グルメ、歴史、体験の5大観光要素を前面に出し、皆様方に新しい旅の形を提案しております。山口県には多くのおいしい地酒がございますので、来場の方々には、せっかくの機会でございますので、地酒も含め、山口の食、文化、自然をたっぷりとお堪能いただければ幸いです。

最後になりますが、本総会の御成功と瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会のますますの御発



森若 峰存 山口県知事代理 土木建築部長

の港湾事務所と地元自治体の方々との密接なかかわりがあればこそというふうに思っております。今回のサミットにおきましても、より連携を強化できるような取り組みなどにつきまして、活発、または効果的な意見交換ができればと期待しております。

最後に、この協議会に御支援、御指導を賜った国会議員の先生方とそれから本日の協議会の開催に向けて御尽力いただきました関係者の皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、協議会のますますの発展と本日の御出席の皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。本日はまことにおめでとございます。この挨拶をいただきました。

続いて、地元開催地である、久保田后子宇部市長より、「皆様、ようこそ宇部市にお越しいただきました。地元、宇部市長の久保田でございます。

瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会の令和元年度総会を、緑と花と彫刻のまち宇部市で開催できますことを大変喜ばしく、本当に御尽力いただきました国土交通省の皆様方に心から感謝申し上げます。そして、本日は御来賓の皆様、そして先ほどは山口県の森若部長様、そして国土交通省海谷審議官様、貴重なお言葉をいただきました。まことにありがとうございます。

さて、会員の自治体の皆様方、1年に一度お会いする皆さんもいらつしやいます。改めて宇部市を簡単に御紹介させていただきますが、宇部港は、平成23年に徳山下松港とともにバルク戦略港湾、石炭部門でございますが、選定を受けまして、国の事業として、船舶、また航路のしゅんせつ工事をしていただいております。感謝にたえないところでございますが、そういう中でこの災害時の相互の応援協定、また昨年からのクルーズ観光の振興ということで、さらに皆様とともにこの瀬戸内をより一層魅力あるものに、また地域の活性化にもつなげていけたらということを取り組んでいただいております。このたびお引き受けをさせていただいて、皆様と宇部でこうやって会議を設けられることは大変私どもも



久保田后子 宇部市長

展並びに御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。「との挨拶をいただきました。

続いて、海谷厚志国土交通省大臣官房審議官より、「本日はここで瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会の総会が、この宇部市におきまして、多くの首長様の御出席のもとに盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます。

また、ここに御出席の皆様方におかれましては、日ごろより国土交通行政、港湾行政に格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

この協議会は、平成3年5月に設立されたということでございますけれども、令和の時代になりまして、この28年間長きにわたり、さまざまな活動をされているところでございます。海をきれいにするリフレッシュ瀬戸内、あるいは災害時における相互応援の体制づくり、また昨年からは瀬戸内海のクルーズ推進会議を設立されまして、瀬戸内海クルーズの活性化に向けた取り組みを行うなど、さまざまな活動をされていることに心から敬意を表したいというふうにも思っております。



海谷 厚志 国土交通省大臣官房審議官

また、第2部のサミットのテーマにも関連いたしますけれども、昨年はこの西日本において非常に甚大な被害を起すような災害が相次ぎました。ここにお集まりの皆様におかれましては、昨年の災害対応、また、これからの復興に向けて、対応に御尽力されていることかというふうにも存じております。

特に、昨年の7月の豪雨災害におきましては、我々国土交通省港湾局でも近畿、中国、四国、九州地整の港湾業務艇、あるいは海洋環境整備船、さらには域外でございますけれども、中部地方整備局のしゅんせつ兼油回収船というのがございますけれども、これによりまして、支援を実施させていただいたところでございます。緊急物資の支援、あるいは給水支援など、市や町の方々と調整いたしまして実施させていただいたというふうにも伺っております。これも日ごろから地元

心強く思うところでございます。

今回特に、後ほどの災害時のこと、災害時に連携し合うためには平時の顔の見える関係が非常に重要だということで、東日本大震災の後に改めて相互の応援協定ということでスタートしたところでございますが、本当にこれから梅雨の季節になります。陸路が断れたとき、海からの支援というものがどれほど効果的であるか、そういったことも私も学んだわけでございます。

そして、さらに宇部市には山口宇部空港という空港もございまして、空からも、そしてまた高速道路、宇部インターもございまして、インターチェンジ、あるいはJR、いろんな交通網をどれが寸断されて、どれが使えてとかいろんなことがありますので、やはり顔の見える関係、すぐ携帯電話で連絡とり合える関係、そういったものは非常に重要だと考えておりますし、そのためには本日のこういった総会、またサミット、そういう中で深めていけたらと思っております。

そして、御紹介いただきましたように、宇部市もこれまで宇部港は工業、あるいは物流の拠点港として本市経済を支えてきたわけですが、改めて見直してみれば、観光としても使えるということ、今クルーズ船の誘致にも力を入れてきているところで、地元経済界の皆様と振興のための会も設置をしたところでございます。皆様のお仲間に入れていただくべく、よろしくお願ひしたいと思います。

そして、きょうの袋にもいろいろ入れてありますが、先ほど森若部長さんからもありましたように、山口県にはおいしいものがございます。宇部市にもお魚もお酒も、そしてきょうはちょっと地元の米粉でつくったおいしいスイーツも、少しですが入れさせていただいております。長年愛されてきたお菓子ですし、そしてあしたの、皆様にこの御案内をしておりますコース、大きく3つございます。まずは宇部港をのんびりいただくこと、それからもう一つは都市公園であります常盤公園ですね。こちらはきょうパンフレットを入れさせていただきますが、国土交通省様のお力で本日に長年にわたってこの整備をいろいろ積み重ねてきておりますが、特にこの3年ほど前、リニューアルいたしました動物園、明日のコースに入っておりますが、全国唯一でおりや柵のない動物園、都市公園の中に動物の森があります。最初、都市公園の中に動物園をつくるのは無理だということがありました。この常盤湖の水を動物園の中に入れて、おりや柵をつくっていただけで、皆さん入っていただいたら動物たちが皆さんをのんびり

なります。ごらんになるとい言葉も変ですが、動物の視線を感じながら歩いていく、動物たちはその湖からの水をべちゃべちゃ飲むとか、そういった自然と共生する動物園の姿、大きなゾウとかライオンとかがおりませんので、柵がなくとも大丈夫ですが、ちょっと先日、カピバラが少し散歩に出てしまつてニュースになつてしまいましたけども、ちゃんと自分で戻つてくれましたので助かりましたけれど、そういう動物園と、それからその近くの、紹介しております植物館、世界で最も多くの人が祈りを捧げる木と言われるバオバブの木、国内最大規模、マダガスカルから運んでまいりました。約3,000万円かかりましたが、市民の皆さんの浄財で全て賄つて今こちらの宇部市にございますのでぜひそこも見ていただき、あと最後にきょうの袋にも入れておりますが、お茶でございますが、今クルーズ船の外国人の皆さん、お時間がないというときには、先般のカレドニアンスカイの皆様にも御案内いたしました、西日本最大規模の茶園を宇部市は持つております。この茶園のほうは、お茶です。年中常緑、緑なんです。ですから冬でも美しい緑を楽しんでいただけるということで、お茶園のほうに御案内をして試飲をしていただき、できればお買い求めいただく。あるいはお茶のこういったスイーツをいろいろ開発しておりますので、そういったことも御紹介をしていこうとございます。

いずれにいたしましても、この瀬戸内ですつながら私ども、平時においては観光振興、またそれぞれのいろんな魅力、芸術、アートであったり、いろんなことで連携をし合えるんじゃないかと思つておりますし、いざというときには支え合う仲間たちとそう思うておりますので、きょうこれからちょっと長丁場になりますけれども、皆様にとりまして有意義な会になりますように、そして、改めて御尽力いただきました皆様方、国会議員の先生方、国土交通省の皆様、山口県、そして民間事業者の皆様、きょう傍聴には地元宇部市議員の皆様もお越しいただいております。本当にどうぞ、みんなで力を合わせて、人口減少、あるいは少子高齢化、皆共通して苦しい時代ではございますが、補完し合えるところは補完して、そして自分たちで頑張るところは頑張ると、そういった気持ちで新たに、また令和元年度、有意義な、そして何よりも安全な、大きな災害のない平穏な一年になりますように、年度になりますように、みんなで願つて、本日の総会の開会

「瀬戸内・海の路の災害時相互応援の連携強化について」と題して議論が行われました。各首長より「日ごろから、顔の見える連携が必要である。」などのご発言頂き、最後にコーディネーターである中国地方整備局副局長より「瀬戸内海を共通とする皆様の連携をこの場で確認できることは非常に意義があるものだと思います。いただいた災害対応に関する御意見を踏まえ、我々国としても引き続き頑張つてまいります。」と取りまとめられました。

現地視察

翌6月1日(土)には、宇部港芝中西埠頭、ときわ公園、藤河内茶園の視察を行いました。

《視察先の紹介》

○宇部港芝中西埠頭

宇部港芝中西埠頭は、外航大型船舶の接岸が可能で、多用途に利用できるマイナス13m岸壁を有する宇部港最大水深の埠頭であり、さらには、近年の外航・内航貨物の急速なコンテナ化に対応するため、大型船舶の接岸可能なマイナス12m岸壁を整備し、これに合わせて、コンテナヤード、コンテナフレートステーション(上屋)、照明施設等を整備しています。また、物流経費の削減、荷役の効率化を図るため、タイヤマウント式クレーンが設置されています。

平成23年に、石炭部門の国際バルク戦略港湾に選定され、航路や泊地の浚渫などの港湾整備が進められ、工業港として利用されています。一方、最近では、西方に位置するマイナス7.5m岸壁の新町埠頭とともに、クルーズ船の寄港にも利用されており、2017年に、芝中西埠頭に「ぼしふいっくびいなす」が寄港し、2019年は、新町埠頭に「カレドニアンスカイ」が、5月5日を皮切りに、全3回の寄港がありました。

○ときわ公園

2016年「世界かんがい施設遺産」に登録された常盤湖を中心に、緑と花と彫刻に彩られた総合公園です。広さ189ヘクタールという広大な敷地を誇る園内では、池坊花道選100選に認定された80,000本のハナシヨウブが咲き誇るしよぶ苑など四季折々の様々な花木が楽しめます。

とさせていただきますと思います。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。」との挨拶をいただきました。

総会議事については、議長に選出された、椎木巧周防大島町長の議事進行により、平成30年度の事業・収支決算報告、令和元年度の事業計画・予算案などの7議案について審議が行われました。平成30年度においては、「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数の拡大を図るための活動や、会員同士の連携や瀬戸内地域の交流・連携、地域振興の取組が積極的に展開されるよう「海ネットイベントプランコンテスト」等の各支援制度の活用推進、令和2年度総会を大分県佐伯市で開催することなどが決議されました。

また、「我が国におけるクルーズ振興の最新動向」瀬戸内海クルーズの更なる発展に向けて」と題して国土交通省港湾局産業港湾課クルーズ振興室長塩田昌弘氏よりご講演をいただきました。

第13回 瀬戸内海首長サミット

平成30年「第12回瀬戸内海首長サミット」では、各首長より地元の魅力の発掘や取り組み等をご発言頂き、各地の魅力をネットワークでつなぎ、点が線になるには、どのような取り組みを進めていけばよいか活発な議論が行われました。

今年度の第13回瀬戸内海首長サミットでは、平成30年7月豪雨を初め、大阪北部地震、台風21号等々、大変災害の多い年であり、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定の実効性を図るべく



第13回瀬戸内海首長サミットの様子



椎木 巧 周防大島町長

また、国内で初めて全園に生息環境展示を取り入れた「ときわ動物園」やプラントハンター西畠清順氏の監修により国内最大級の特徴的なシンボルツリーを植栽した「ときわミュージアム」世界を旅する植物館」もリニューアルオープンし、癒し・憩いの場、また県内屈指の観光施設として多くの方々に愛されています。さらに、常盤湖を望むUBEビエンナーレ彫刻の丘では、世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」を隔年で開催し、豊かな自然とアートが調和した美しい景観を堪能できます。

○藤河内茶園

山口県における茶の栽培の起源は約600年の歴史があり、豊臣時代には、各地の藩主は茶道を尊び、それに伴つて毛利藩でも茶の栽培・生産に力を入れていました。江戸時代に長州藩によって行われた産業振興策で、現在の県内各地に茶の栽培が広く普及しました。明治時代には山口県が茶業に対して積極的に施策を推し進め「防長茶」として全国に名を広げ、現在では、宇部市北部の小野地区に、2ヶ所にまとまっている茶園としては、西日本随一の面積を誇る「宇部市藤河内大茶園」で栽培されているお茶は「山口茶」として販売されています。

近年は茶園としてだけでなく、観光コースにも取り入れられるなど、重要な観光資源となっており、宇部港に寄港したクルーズ船のオプションツアーで実施された茶摘み体験は、非常に喜ばれました。



宇部港芝中西埠頭視察の様子



ときわ公園視察の様子



藤河内茶園視察の様子

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 令和元年度担当者会の開催報告

令和元年11月21日(木)～22日(金)の2日間、香川県坂出市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会担当者会を開催しました。

当日は約80名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。また、22日に行われた現地視察では、市内の川崎重工工業株式会社や与島パーキングエリアから瀬戸大橋を視察しました。



担当者会の様子

開会



山本 洋史 広島市都市整備局みなと振興課長

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、山本洋史広島市都市整備局みなと振興課長より、「本年5月31日に山口県宇部市で開催された総会においては19名の首長に参加いただき、第13回瀬戸内海首長サミットで「瀬戸内・海の路の災害時相互応援の連携強化について」をテーマに、昨年の災害を踏まえた議論をしていただき、非常に有意義なものとなった。この担当者会は、今年度の取組の報告と、次年度の取組に向けたスタートという位置づけあり、全体会及び各実行委員会(分科会)において率直な御意見を頂き、中身の濃い議論をお願いしたい。」との開会挨拶をいただきました。

大変な点でもある。是非そういう点も含めて議論の参考にしていきたいと思う。本日の担当者会を是非、実りあるものにして頂きたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部尾崎靖クルーズ振興・港湾物流企画室長より、「次期総会は、各実行委員会において、議論いただいた上で創られていくものである。更なる海ネットの発展、ひいては、瀬戸内海全体の更なる魅力の増大や会員相互のネットワークの強化につながるものと確信しているため、活発な意見交換が図られるようお願いいたします。」との挨拶を行いました。



尾崎 靖 中国地方整備局クルーズ振興・港湾物流企画室長

令和元年度事業報告、分科会(実行委員会)及び全体会

令和元年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行いました。

事務局からは、支援事業の説明として「瀬戸内海活性化活動支援」、「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点地環境関連行事等連携支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」、「防災対策推進活動支援」について紹介し、引き続き募集についてのご案内とともに、「会員の皆様の積極的な活用をお願いします」と説明がありました。

また、次年度の総会について「大分県佐伯市にて開催、担当者会については広島県広島市にて開催するので皆様の参加をお願いしたい。」との説明がありました。

各実行委員会終了後の第二部の全体会では、実行委員会での議論の内容

次に、開催地を代表して、坂出市綾宏市長より、「坂出港は江戸時代より塩の積出港として栄え、昭和23年に開港、昭和26年には重要港湾に指定され、瀬戸大橋の四国側における最初の地で、四国北東部における流通の拠点である。昨年、開港70周年、瀬戸大橋開通30周年を迎えた。現在、港湾を取り巻く環境というのは非常に厳しいものがある。港湾といっても太平洋側と日本海側では環境も大きく異なるが、それに比べ、瀬戸内側では環境も気候も似ているところがあり、災害協定を結ぶことなどは特に瀬戸内海の方が良いと感じている。ただ、範囲が広いという点があり、本日も、遠方よりお集まりの担当者の方もたくさんいらっしゃると聞いているが、その瀬戸内海という広い範囲からお越しの方で構成されているこの担当者会によって、本会議が成り立っているという点がある。本日は是非、熱心な議論を交わしていただければと思う。四国を取り巻く港湾の環境は、最近では米中問題、また、中国、韓国と、日本を取り巻く環境変化に対し、アジア圏との関連が多い企業もある中で、先行きが見えないという状況が続いている。地元の中小企業にとっては厳しい状況となっている。



坂出市 綾 宏市長

そうした中、坂出市としては四国地方整備局とともに10年先を見据えた「ユースポートプラン」として、港のあり方、港湾のあり方、防災の拠点のあり方など、「みなとの将来のあり方」を検討した。将来を見据えた港の方向性が大切で、また港と港間のコラボレーションも必要と思う。坂出市は重要港湾である方、市が港湾管理している港湾である。非常に良い点でもあるが、

報告、および令和2年度の活動内容についての方向性が提示されました。各実行委員会においても担当者から活発な意見や質問が交わされ、瀬戸内海地域の振興・発展について議論を行いました。

なお、各実行委員会である、「魅力検討委員会」「環境事業委員会」「情報発信委員会」「防災委員会」での議論の内容は以下のとおりです。

分科会

魅力検討委員会

魅力検討委員会では、令和元年度の活動状況と次年度活動方針について議論しました。令和元年度の活動報告において、「海ネットイベントプランコンテスト」「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」に関して、応募件数が少なく、現在も応募期間中であるため、積極的な応募を頂けるよう効果的に周知を図ることが確認されました。



魅力検討委員会の様子

令和2年度の活動方針としては、引き続き風光明媚な自然景観を有する瀬戸内海のポテンシャルを活かした、様々なイベントに対し、積極的な支援や連携を図ること。瀬戸内海の魅力の発信と、会員相互間の交流・連携を推進し、災害時にもその連携を防災ネットワークとして活用できるように瀬戸内・海の路の利用促進を図ることを確認するとともに、予算についても今年度と同額とすることを確認しました。

また活動内容として、「イベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援すること、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により、会員間の連携により瀬戸内海の利用振興を推進するということでも承されました。

■環境事業委員会

環境事業委員会では、骨格事業として継続して実施している「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」について、協議いたしました。今回の環境事業委員会では、各地での清掃活動状況と、参加者数を一定確保するためにどのような工夫を行っているかなどについて意見交換を行いました。また、近年話題となっている海洋プラスチック・マイクロプラスチックの問題に関して、リフレッシュ瀬戸内としてのどのような取組が可能かを議論いたしました。参加の皆様からは次の意見をいただきました。

- 【各地での実施状況、参加者確保の取組みに関して】
- ・地元小学校に参加を呼びかけ、連携したことで二気に参加人数を増やすことができた。また、清掃後には環境学習も併せて実施しており、子どもの学習の場としても喜ばれている。
- ・活動のPRも工夫しており、外部から見えてイベントをやっているということが分かるよう、「リフレッシュ瀬戸内」ののぼりを掲げながら清掃活動を行なった。企業からの問い合わせも増え、一定の効果も上がっている。
- ・例年一般企業の方々から多くの参加を頂いている。今後は小学生も増やしていきたいと考えていたので、紹介のあった小学校との連携による取組みは当方も参考にしたい。
- ・今年はビーチフラッグイベントの実施に合わせ、開始前の清掃活動を実施し、人数を確保することができた。海のイベントを有効活用することで、参加者確保につながれるのではないかと。

【海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題に関して】

- ・身近な問題としての実感がまだないというのが正直なところ。まずは問題提起として、リフレッシュ瀬戸内のチラシなどにマイクロプラスチック問題がどういうものかを簡単に説明するなどの啓発活動から始めるのがよいのでは。



環境事業委員会の様子

活動方針として、引き続き締結会員の拡大を図り、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」第12条（協定の有効性の確保）に向けて、引き続き訓練を実施し、より有効性の高いものとするため、訓練後のアンケート結果等から実施体制や情報伝達の方法を検討すること、「防災対策推進活動支援事業」が広く活用されるよう働きかけを継続して行い、支援要件の緩和について検討することを確認しました。



防災委員会の様子

- 活動報告としては、①締結会員の拡大、②防災委員会活動内容等の情報発信について、③防災対策推進活動支援事業の制度の概要の一部修正、④新規会員追加の様式について、⑤実効性の確保に関わる活動について、⑥第13回首長サミット首長様のご発言対応について報告を行いました。
- ①締結会員の拡大では、令和元年10月25日に大分県津久見市が協定締結を完了し、現在の会員数は76会員となったことを報告しました。
 - ②情報発信については、海の路ホームページを利用し、防災委員会の活動計画等を掲載している点について報告しました。
 - ③防災対策推進活動支援事業の概要について、個別会員での防災訓練についても対象とできるように変更した点について報告しました。
 - ④新規会員追加様式について、発信者を「市長」とし、協定運営協議会幹事○○課長○○○○を追記し、市長宛の様式とすることについて報告しました。
 - ⑤情報伝達訓練を令和元年10月31日に実施し、訓練を踏まえた反省点や意見について情報共有していくことを報告しました。
 - ⑥首長様にご発言いただきました内容について防災委員会では対応案を作成し意見をいただき対応方針について検討を行うことを報告しました。

・近隣高校の科学部にマイクロプラスチック問題を調査しているグループがあり、今年の「海の健康診断調査」と合同で調査を実施した。このような団体と共同で取り組むことで、今後の活動を広げていけるかもしれない。これら議論頂いた結果を受け、リフレッシュ瀬戸内の事業計画に関する部分は、環境事業委員会所属会員と相談の上、来年度の実施方針に反映、幹事会・総会へお諮りしていきます。

■情報発信委員会

情報発信委員会では、活動方針として、海ネットの活動を効果的に発信するとともにより多くの人に瀬戸内の魅力を認識していただき、興味をもってもらえる情報発信を継続して行っていくという目標とし、ホームページ等の更新をしていくことを確認しました。



情報発信委員会の様子

今年度、定期的に情報発信依頼を行ってきましたが、閲覧状況を分析したところ、今年の4月～9月の総アクセス数は48931件で昨年と比較し約1.4倍と増加している一方、会員からのイベント情報の発信は、今年度は3件にとどまっている点が課題として共有しました。

意見交換では、各会員に定期的に掲載更新依頼を今後も行っていくこと他に、各海ネット活動で支援している会員のイベントについてホームページ掲載を支援条件とするという意見がありました。また、ホームページ更新は各会員のIDとパスワードで実施できるため、IDとパスワードの再周知の必要性についても意見がありました。

■防災委員会

防災委員会では、令和元年度の活動報告及び令和2年度の活動方針について議論をおこないました。

現地視察

翌日22日は、はじめに訪れた川崎重工業株式会社坂出造船工場において、大型船舶の建造工場である当施設の造船技術および建造工程について、総務課松岡正人課長よりご説明いただきました。工場は瀬戸内海に面し、本四連絡橋の付け根である坂出市で1981年にアジアではじめてLNG（液化天然ガス）運搬船を建造して以来、主にガスカリアの建造工場として世界中の企業に大型LNG運搬船を納入し高い評価を受けており、概要説明の後、広い工場内をバスで見学しました。敷地内には巨大な船のパーツが整頓されており、艦装岸壁（全長1.4キロメートル）に係留されているLNG運搬船や、LNGを積載する球形タンクを組み立てる設備を見学しました。

その後、バスで移動して訪れた与島パーキングエリアでは、エリア近くの橋梁たもとにあるアンカレイジ（瀬戸大橋のワイヤーを固定している橋台設備）内で瀬戸大橋の建設の歴史や構造について、本州四国連絡高速道路株式会社坂出管理センター計画課（兼）鉄道施設課中村哲也課長よりご説明いただきました。

参加者は瀬戸大橋を支えるワイヤーの大きさや安全対策の工夫等に耳を傾ける一方、近年好評である「瀬戸大橋スカイツアー」と題した、橋梁塔頂し瀬戸大橋の全景と瀬戸内海の多島美を眺めることができるツアーにも質問が及びました。晴天にも恵まれ、現地視察は大変充実したものとなりました。



川崎重工業株式会社坂出造船工場 概要説明



本州四国連絡高速道路株式会社による瀬戸大橋の概要説明



与島パーキングエリア見学

環境事業委員会活動

リフレッシュ瀬戸内の開催について 全体拠点地レポート

広島ブロック

令和元年6月1日から8月31日の間、「受け継ごう、きれいで豊かな瀬戸の海」を言葉に27回目となる「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は、瀬戸内海沿岸各地の260箇所での開催となり、37,692人のボランティアの方々が参加し、約220トンのゴミを回収することができました。

全体拠点地の広島県坂町では、海の日である実施日の7月15日(月)にボランティア700人が参加し、約5.5トンものゴミを回収しました。

参加者からは、「みんなで清掃することが醍醐味。町民みんなで行うことが大切だと思います」、「この海岸を気持ちよく利用してもらえよう、地域住民として気持ちを込めて清掃しました」、「清掃することで、住民の気持ちが一つになりました」といった声をいただきました。

今後も、瀬戸内海をはじめとする地元海岸の環境美化に対する意識を高めるとともに、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していきたいと考えています。

リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート



清掃活動状況

令和元年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	府県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)
大阪府	岬町	7	1,407	4.9	徳島県	小松島市	10	2,531	7.8
兵庫県	神戸市	18	3,586	18.1	愛媛県	伊予市	76	4,876	35.9
和歌山県	和歌山市	18	1,650	19.3	周防灘(山口県)	別府市	22	9,230	50.8
岡山県	浅口市	7	2,914	8.5	周防灘(福岡県・大分県)		2	128	0.4
広島県	坂町*	42	4,765	31.5	合計	-	260	37,692	219.4
香川県	小豆島市	58	6,605	42.1					

*坂町は全体拠点地

大阪ブロック(岬町)



6月29日(土)、淡輪漁港において実施しました。約20名の参加があり、木片など約0.6トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

キレイになった海岸を見るのは気持ちがいいです。約1時間の作業でしたが、良い経験になりました。来年も参加したいです。

兵庫ブロック(神戸市)



6月30日(日)、須磨海岸において実施しました。例年行っている「須磨海岸クリーン作戦」とあわせて実施し、約2,000名の参加があり、約0.6トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

悪天候にも関わらず多数の方が参加していた。神戸市民の皆さんの意識の高さを感じました。

岡山ブロック(浅口市)



7月14日(日)、青佐海岸において実施しました。約155名の参加があり、流木など約0.3トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

毎年、清掃ボランティア活動に参加しています。この活動を通じて、きれいな海岸を守ることの大変さと、地域との連携がいかに大事であるかを感じました。子供たちにも貴重な経験ができたと思います。



和歌山ブロック(和歌山市)



5月22日(水)、24日(金)、6月16日(日)、加太海岸等において実施しました。3日間で延べ817名の参加があり、プラスチック類のゴミなど約6.9トンものゴミを回収しました。

参加者からの意見

事前に報道機関へ資料提供を行い、当日は地元新聞社による取材も受けました。「リフレッシュ瀬戸内事業」のシールを作成し、清掃道具に貼り付けて海岸清掃活動への取り組みを啓発しました。使用後の清掃道具を参加してくれた地元小学校へ提供し、「リフレッシュ瀬戸内」のPRを行いました。

愛媛ブロック(伊予市)



7月14日(日)、本郡海岸ほか6箇所において実施しました。約700名の参加があり、約12.8トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

予想以上にゴミの量があって驚きました。天気は悪かったですが、地域のみならず一体となって行う清掃活動はとても気持ちのいいものでした。1日だけでは時間が足りず、日ごろから地域でこういった清掃活動を行うことが非常に大事であると実感しました。

周防灘ブロック(別府市)



8月18日(日)、餅ヶ浜海岸において実施しました。約40名の参加があり、0.3トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

学生の頃から漂着物が多いと感じており、清掃活動に参加し自分自身の力でも海岸を綺麗に出来るのだと実感することができ、参加してよかった。海岸には様々なゴミが落ちていることをあらためて実感しました。キレイな海岸を保てるよう、これからも清掃活動に参加していきたいです。

香川ブロック(小豆島町)



6月から7月のうち延べ8日間で、汐江海岸ほか15海岸において実施しました。参加者数は延べ594名で、約8.9トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

きれいな海を守り後世に伝えていくことは、この地域に生きる我々の責務であると痛感しました。今後もこの活動を続けていきたいです。

徳島ブロック(小松島市)



6月8日(土)、横須・金磯海岸において実施しました。約1,000名の参加があり、プラスチック類ごみなど約2トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

毎年参加していますが、子供が一生懸命ゴミを拾っている姿を見て、自分ももっと日ごろから、ゴミを減らすという認識を持たなければいけないと思いました。早朝から清掃活動をし、実際に海岸がきれいになると、精神的にもすっきりしたような気持ちになりました。

海の健康診断調査を実施しました

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」（ゴミの組成調査）を実施しています。

令和元年度は全ブロック中11箇所の海岸において調査を実施しました。実施箇所及び実施結果につきましては、以下のとおりです。

素材別に見ますと、プラスチック類、発砲スチロール、金属類が全体的に多く、過去と同様の結果が得られました。

これまでの継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内海に住む人々のゴミに対する意識向上に役立てていきたいと考えています。

今後も調査を継続していくことにより、瀬戸内海全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミを情報発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次の世代に継承していく取り組みに繋がっていきます。

魅力検討委員会活動

「海ネットイベントプランコンテスト」への支援

瀬戸内の豊かな自然環境や歴史的な地域文化の保全・継承や、瀬戸内ブランドの価値の向上など、オリジナリティ溢れる地域活性化イベント等への支援を拡充するため「海ネットイベントプランコンテスト」を実施しています。「海ネットイベントプランコンテスト」は、事前に企画した瀬戸内の魅力を向上させるイベントプランを会員から募集し、全会員による投票により支援対象イベントを決定、賞に合わせた支援をするものであり、継続的に実施しているイベントの発展、目的意識の明確化、会員間の情報交換の促進などの効果も期待するものです。



「ひがた美人まつり」
「ひがた美人でひとひとの
具合合わせ」

- 会員 中津市（大分県）
- 開催日 令和元年7月14日、令和2年3月15日
- 内容 本イベントは、「ひがた美人」という員をきっかけにひとひとが「具合合わせ」のように中津の海辺で出合い、つながってもらうことによる地域活性化を目的

兵庫ブロック



西宮市（甲子園浜海岸）
参加者からの意見
実際にゴミを拾ってみることで、どんなゴミが多いのかを実感することができた。依然としてペットボトルのキャップ、ビニール、プラスチックの欠片が多かったが、年々ゴミが減少しているように感じた。

和歌山ブロック



和歌山市（加太海岸）
参加者からの意見
海浜のゴミの種類や量が分かり、後日実施予定のボランティアや関係機関とのリフレッシュ瀬戸内事業（清掃活動）の参考となった。

香川ブロック



坂出市（沙弥西ノ浜海岸）
参加者からの意見
海浜に流れ着く硬質プラスチック破片や発砲スチロール破片が思いのほか小さく砕かれていることを実感できた。

岡山ブロック



岡山市（宝伝海水浴場）
参加者からの意見
今回実施してみて、ごみ発生の原因の多くは人が捨てているものが多かった。瀬戸内海の環境保全のため日頃よりPRが必要と思った。

瀬戸内市（前泊海岸）

参加者からの意見
海藻やその他の生物と癒着したゴミは、その状態の悪さや悪臭から回収・分別には苦労した。大変興味深い活動であるので繰り返し実施することが望ましいと思う。海岸の美化という観点からも、ぜひ継続実施していきたい。

愛媛ブロック



伊予市（森海岸ほか）
参加者からの意見
市内各海岸のゴミの状況を把握することができたため、今後の清掃活動の改善や市民への情報提供に活かすことができた。小さい流木の下に埋まっているゴミが多数あって苦労した。ゴミの分類の判断に苦慮することがあった。

広島ブロック



廿日市市（扇園海岸）
参加者からの意見
拾ったゴミの数と種類を集計することで、行政が行う環境施策のエビデンスになるかもしれない。発砲スチロールは細かく断片された状態であったため、カウントが難しいものもあった。

周防灘ブロック（山口・福岡・大分）



姫島村（みつけ海岸）
参加者からの意見
早朝からみんなで海岸清掃ができて楽しかった。海岸をきれいにして魚がこれからは増えるといいなと思う。

徳島ブロック



小松島市（横須海岸）
参加者からの意見
どのようなゴミが多いのかということ把握できたので、実施して良かった。

としています。イベントでは親子体験やカキコン等を実施しており、夏と冬に実施した「親子deひがた美人体験」では延べ26組64人の方に参加していただきました。中津の海やカキの養殖方法について学んだり、漁場の見学、ひがた歩きなどを行いました。漁場では実際に養殖カゴからカキを取り出して観察し、養殖ロープについたフジツボ外しを体験しました。参加者からは「楽しかった」、「また参加したい」との声がありました。



ひがた美人についてのクイズを行っている様子



ひがた美人の説明を受ける様子



「SEE TOUCH - PORTO」
「MERCATO SEVENESE」

- 会員 竹原市（広島県）
- 開催日 令和元年11月17日

港でつながる竹原・大崎上島の特産品を集め、「海の恵み」を感じるマルシェを開催しました。「食」・「癒し」・「学び」・「遊び」4つをテーマにした瀬戸内の魅力を市内外に発信し地域活性化に寄与することを目的としました。「食」：竹原・大崎上島広域連携による瀬戸内海産物（牡蠣・車海老）をはじめ、瀬戸内の風土を感じる特産品を販売しました。「癒し」：海から感じる癒しを演出し、海岸沿いの遊歩道に簡易的なリサイクル廃材を使用したテーブルを作成し、海を眺ながら食事ができるスペースを作りました。「遊び」：…たけはらパドルスポーツ協会と連携して、シーカヤック・SUPなどインストラクターの指導の元、マリンスポーツを行いました。竹原・大崎上島を結ぶ定期船山陽商船株式会社と連携して「のっとこクルーズ」に乗船できる企画や瀬戸内クルーズと連携して、30分程度のクルージングを行いました。貸し出し自転車を用意して竹原と大崎上島「瀬戸内海サイクリング」の企画で地域連携を深め、相互の観光客増大に向けての実証実験を試みました。

■ 広島ブロック		■ 岡山ブロック		■ 兵庫ブロック		■ 和歌山ブロック	
廿日市市（扇園海岸）		笠岡市（宝伝海水浴場）		瀬戸内市（前泊海岸）		西宮市（甲子園浜）	
発砲スチロール	75.5%	プラスチック類	73.7%	プラスチック類	50.6%	プラスチック類	61.1%
プラスチック類	14.3%	紙類	7.6%	金属類	28.5%	金属類	18.3%
金属類	4.1%	発砲スチロール	4.2%	発砲スチロール	10.2%	ガラス類	13.1%
■ 周防灘ブロック（山口・福岡・大分）		■ 愛媛ブロック		■ 香川ブロック		■ 徳島ブロック	
姫島村（みつけ海岸）		伊予市（森海岸）		坂出市（沙弥西ノ浜海岸）		小松島市（横須海岸）	
プラスチック類	87.8%	プラスチック類	80.5%	プラスチック類	67%	プラスチック類	84.2%
ガラス類	7.3%	金属類	7.3%	発砲スチロール	30.9%	発砲スチロール	14%
金属類	4.9%	木片（自然物以外）	7.3%	ガラス類	1.1%	紙類	1.8%

※「クリーンアップ全国事務局」の基準に基づいたアイテム別99分類ごとの組成について、各海岸ごとの上位（組成の多い方）から3位までを（個数%）で記載。



瀬戸内海産物の牡蠣と車海老



リサイクル廃材を使用した机で食事の様子



「風早サンドアートフェスタ2019」

- 会場 松山市(愛媛県)
- 開催日 令和元年7月14日
- 内容 松山市では、風早(北条)地域(旧北条市)の活性化を目的として、平成25年3月に「風早レトロタウン構想」を策定、その推進母体として北条地域の住民や団体が「風早活性化協議会」を結成し、主体となって活性化に取り組んでいます。昨年は、「北条長浜海岸」で開催しましたが、今回は、対面に位置する「北条鹿島」に場所を移し、「北条鹿島」で毎年開催されている「海びらきフェスタ」と同時開催し、より誘客を図りました。瀬戸内海国立公園に指定されている北条鹿島は、二年を通じて手軽に釣りができ、炊事棟や無料のシャワールーム、水洗トイレも完備されていることが



サンドアートを作成中の様子



グランプリ受賞作品

らキャンパや海水浴も楽しめる島です。この、北条鹿島海水浴場の砂浜の砂を活用して、押し固めた土台を削り、アートを作成し競い合う「サンドアート(砂像づくり)フェスティバル」を開催し、来場者の滞在時間を延ばすことで、海岸から見える美しい景色や海岸自体の魅力を広くPRしました。

また、次年度のイベントプランについても、全会員による審査投票の結果、受賞企画が決定しました。

- 最優秀賞 よりしま海と魚の祭典(岡山県浅口市)
- 優秀賞 広島湾ナイトクルージング(広島県広島市)
- 奨励賞 風早の郷ふわり納涼花火祭り(愛媛県松山市)

瀬戸内のブランド化に向けた官民連携活動(海ネットサポーター提案事業)

官民連携による瀬戸内の新たな賑わいを創出するため平成23年度に制度化された「海ネットサポーター」は、設立当初の55団体から90団体(令和2年5月総会承認予定含む)にまで拡大しています。

「海ネットサポーター提案事業」は、行政である会員と民間の海ネットサポーターが連携した瀬戸内のブランド化に向けた地域振興への取り組みに対して支援を行うものであり、令和元年度は2件の事業を実施しました。

小松島みなとフェスティバル

- 実施会員及び海ネットサポーター名 小松島市、NPO法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま

● 実施日 令和元年10月26日

小松島市が海ネットサポーターであるNPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまと連携し、本港地区周辺にてイベントを実施しました。本事業実施会場付近では市の開催する「みなとマルシェ」



徳島ヴォルティス公式チア風景

等、広範囲でのイベントが開催されました。

子どもビンゴ大会では100枚の整理券をすべて配布することができ、会場を盛り上げることができました。また、会場横で実施した小松島競輪のゆるキャラである「ボンスター」のふわふわドームは子供たちで賑わいました。

徳島ヴォルティス公式チアアリーディング、阿波踊りの演舞等を行ったこともあり、市内外の方々等、多くの人々が集い、交流を深める機会となりました。

よりしま海と魚の祭典

- 実施会員及び海ネットサポーター名 浅口市、よりしま海と魚の祭典実行委員会
- 実施日 令和元年12月1日

浅口市が海ネットサポーターであるよりしま海と魚の祭典実行委員会と連携し、瀬戸大橋の見える海と太陽の町「よりしま」のイメージ高揚と浅口市寄島町の中心産業である漁業の振興・魚介類販売上の付加価値向上及び農業をはじめとする地場産業のPRを目的としたイベントを実施しました。

寄島漁港で水揚げされたばかりの寄島ガキをはじめ、ワタリガニ・シヤコなど地元の新鮮な魚介類・農産物等の販売の他、マグロの解体ショーや魚の重さ当てクイズ、漁協によるミニ競り市、地元団体による和太鼓の演奏などのアトラクションも開催され、多くの来場者で賑わいました。



ミニ競り市を行っている様子



マグロの解体ショーの様子



阿波踊り風景

情報発信委員会活動

WEBサイト「海の路」を利用した情報発信について

情報発信委員会では、WEBサイト「海の路」の閲覧者を増加させ、より多くの人に瀬戸内海の魅力を発信する為、内容の充実化を図っております。特に各会員ご自身での情報発信が可能なシステムとなっており、各地で開催されるイベント情報をはじめとして、各地の魅力を自由に発信できるようになっております。会員の皆様からより新しく、より多くの情報を発信していただくためにも、定期的に情報提供依頼をさせていただいております。海ネットサイト管理ホームページに掲載されております「運用マニュアル」を参考に、是非情報の発信をお願い致します。

過去のアクセス状況の解析を行ったところ、令和元年4月からのWEBサイト「海の路」では月に約8千件程度の閲覧があります。平成30年の同時期の閲覧数よりも増加しており、会員の皆様からの情報が閲覧者の目に留まる可能性も高まっております。また、会員の皆様からの情報でWEBサイト内の内容が充実していけば、閲覧者が増加し興味を持つ人も増えていくと期待されます。今後とも、海ネットホームページを活用した積極的な情報発信をよろしく願います。



防災委員会活動

海ネット協定に基づく

情報伝達訓練を実施

令和元年10月31日に「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)」の実効性の確保を目的に、協定締結共助会員76会員(現在77会員)のうち、66会員の参加のもと、情報伝達訓練を行いました。

本訓練は平成25年度から毎年実施(平成28年度は熊本地震、平成30年度は大阪北部地震、7月豪雨等の影響で未実施)しており、本年度も過去の訓練同様、情報伝達体制の確立と迅速な応援を重点項目として実施しました。

今回の訓練では、「応援とりまとめ幹事による応援会員と被災会員のマッチング※作業にかかる負担軽減」、「訓練様式の改善」、「通信手段の確保」に重点をおいて訓練を実施しましたが、メール送受信不具合により、予定終了時間を超過する結果となりました。

協定締結共助会員が増える中、情報を確実に伝達できる方法について、更なる検討が必要であると感じました。

今後は、訓練結果やアンケートで頂いた意見をもとに、災害時に迅速な応援ができるよう訓練内容等の改善を図るとともに、全共助会員が全ての役割を経験できるように継続して訓練を実施し、更なる協定の実効性の確保に向けた取り組みを行っていきたく考えています。

瀬戸内海クルーズ推進会議

瀬戸内海クルーズ推進会議 第2回全体会議

【開催日】令和元年5月23日(木) 14時～15時30分

【場所】海技試験場(広島合同庁舎4号館付属棟)

【次第】(1)瀬戸内海クルーズ推進会議の取組報告について

(2)瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの基本方針案(案)について

(3)今後の進め方について

【主な意見】

大阪府：大阪万博や古墳群の世界遺産登録など、大きいインパクトがあるため、他の地域と連携しながら、これに乗じてクルーズ船誘致を行いたい。

兵庫県：クルーズ船寄港イベントでは地元高校生も協力して盛り上がった。姫路港としての強みは、観光資源に姫路城があることだが、新幹線の駅の方が港より近い。そのため、同時に弱みとなっている。

神戸市：積極的にプロモーションを行い、クルーズ船を引き続き誘致していきたい。それぞれの地域の魅力アップを進め、瀬戸内海での範囲を広げたい。

広島県：広島県の観光資源としては、原爆ドームや宮島などがあり、港からのアクセスも良く好評である。しかし、その他の観光地と広島港のアクセスが良くないため課題。島しょ部観光など新しいものにも取り組みたい。

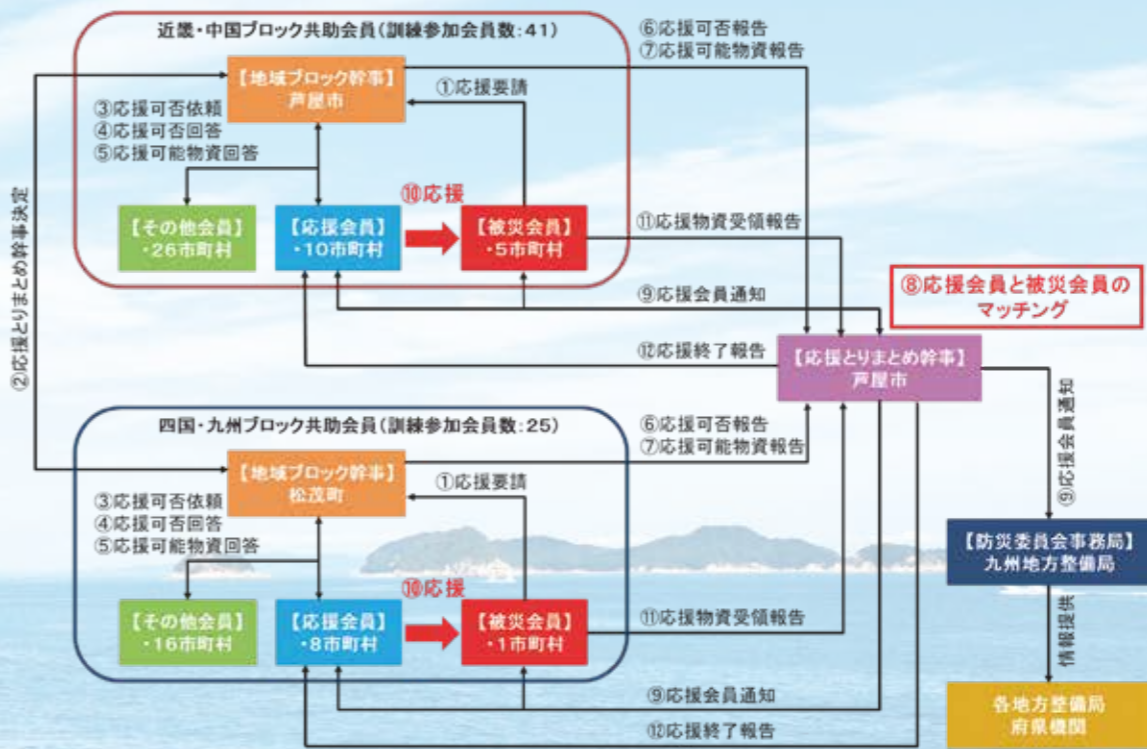
呉市：これから、クルーズ船誘致に取り組み始めるところであり、市長を含め積極的に進めている。山口県：次回の海ネット総会が宇部で行われる。指導のほどお願いしたい。

香川県：香川県では、交流推進課が主にクルー



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第2回全体会議 開催状況

情報伝達訓練フロー



※マッチング:被災会員の求める物資に対し、応援会員の応援可能物資を調整すること。

ズ船誘致を行っている。香川県の強みとしては瀬戸内国際芸術祭がある。坂出市：坂出市では、林田地区での利用頻度が高い。また、観光資源としても大塚美術館があるが、坂出市で観光客がお金を落とさず。クルーズ船には、大型、小型があるが、対象とするクルーズ船により強みや弱みが異なる。愛媛県：愛媛県では、松山港にダイヤモンドプリンセスが寄港し、一般市民にも好評であった。現在、費用や時間の面で航行安全検討委員会への対応が課題となっている。情報共有をお願いしたい。

新居浜港：新居浜港は、クルーズ船の寄港実績がほとんどない。新居浜港は施設が少ないためマイナスイナス7.5m岸壁を他の船の利用と併用している。このような中で、同じような港があればクルーズ船誘致に関する情報共有や意見交換を行いたい。今後は、クルーズセミナーなどを行う予定である。

下関市：下関港では大型船を中心に受入れを行っている。現状は貨物船の利用が優先であるが、今後は、クルーズ拠点としてMSC社がターミナル整備を行う予定である。北九州市：瀬戸内海クルーズについて、船社に興味を示し手もろうことが重要。アクションプラン作成を通じて、周遊ルートや地域の強みの整理を行ってきたい。瀬戸内海クルーズについては、ターゲットをどのように設定するかが重要である。関連する規制の緩和についても要望していきたい。

大分県：別府港では14万トン級のクルーズ船を受け入れ可能となっている。今後、中型船を中心に誘致していく考えである。また、別府市や佐伯市でもクルーズ船受け入れに注力しており、バスツアーなどを企画している。大分の港へは、神戸や下関を経由して寄港することが多いため、前後の寄港地と連携していきたい。中国経済連合会：これだけ大きな会議で、成果を出していくことは大変、意義のあることだと思う。観光振興は新規振興の柱となる。アクションプランを基に、観光地と港の連携や観光地の磨き上げを、関係機関と協力しながら進めたい。四国経済連合会：地域創生に向けて観光振興は大変重要である。情報発信だけ

では限界がある。人が来てくれて、お金を落とすことが重要である。お金を落とすという仕組みが必要。また、航行安全に関する検討内容や夜間の航行などに関する規制緩和を考えて欲しい。経済界として規制緩和を要望していることも良いと考えている。

せとうち観光推進機構・瀬戸内海にインバウンドを呼び込む活動に取り組んでおり、来訪者にお金を落とすという仕組みを落としてもらい、地域が潤えばと思っている。機構では、瀬戸内海のプロモーションや観光商品の開発などを行っている。観光コースの醸成など、地元自治体と連携していきたい。

日本プロジェクト産業協議会・インバウンドを対象とする観光振興について、これだけの方々が集まり議論する機会ほとんどなく、貴重な場であると感じている。是非、積極的に協力していきたい。

神戸運輸監理部・海事観光を進めるにあたり、3つの視点で投資を行っている。瀬戸内海なので島しょ部クルーズなども取り組んでいきたい。

中国運輸局・観光資源の磨き上げなどを進めている。各港でアクションプランを作成し、各港の取り組みを集約することにより、各港が連携し、クルーズ振興を図って行きたい。

四国運輸局・クルーズ船が寄港しても、来訪者がお金を落とすことがなければ意味がない。買い物や飲食でお金を落とすという仕組みが必要である。最近では、ナイト観光なども実施している。クルーズ船の誘致に関して、案内の多言語化やWiFi導入などへの補助事業もある。

九州運輸局・九州のクルーズ船は中国からのラグジュアリー船が中心であるが、昨年度は寄港が減少した。今後は、プロモーションにも注力し、寄港地や観光資源の充実を図り、ラグジュアリー船を中心に誘致を進めたい。

近畿地方整備局・アクションプランの作成をお願いしたい。

四国地方整備局・クルーズ船の誘致の検討や提案、協力をお願いしたい。

九州地方整備局・九州地域の港には全国のクルーズ船の約3割が寄港している。このうち、約8割が中国発着のクルーズ船であるが、昨年度、中国発着のクルーズ船は約15%減少した。今後は、ラグジュアリー船の寄港を増やして行きたいと考えている。特に、九州の東側にクルーズ拠点が少ないため、東側地域にラグジュアリー船の寄港地を確保したいと考えている。



クルーズ船乗船体験レポートの様子

を進めていきたい。

・まだ知られていない観光資源の提案、(食・島・地元)の食べ物等を活かした少人数のアクティブな活動も求められている。地域や島々の様々な魅力を発掘して体験型メニューを増やし、少人数で特別感のあるプログラムを売り込んでいきたい。

・各自治体の取り組み事例・情勢をシンポジウム等で外部紹介・発信し、色んな規模のクルーズ対応やソフトとハードを含めた連結・結束を考えていきたい。

・既存の活動の中でクルーズの位置づけ、既に繋がりのある地域事業者との連携の在り方を考えていきたい。

・港の規模を逆手にとり、ターゲットを絞ったクルーズ誘致活動も効果的と考えられる。

【推進における課題と対応方針】

・2〜3年先のイベント日程が決まっていない中でクルーズセールス(誘致活動)の大きさを感じている。そういう所を早く察知し、地元の特産イベントを活かした売り出しを進めていくやり方も重要だと思つた。

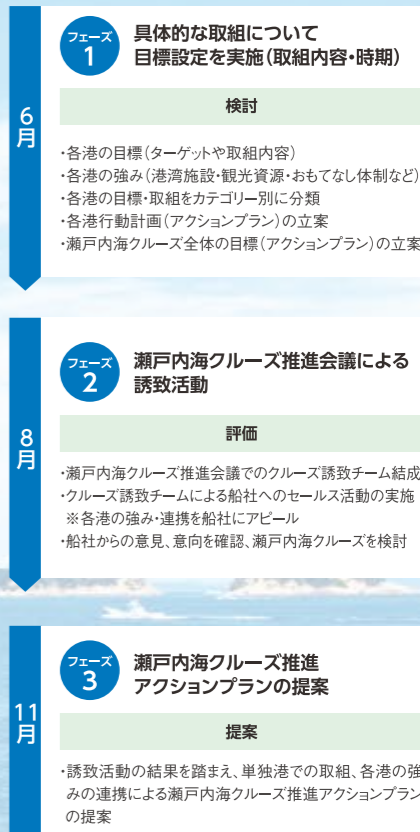
・工業港や物流岸壁の制約もあり、受け入れにも限界はある。クルーズ寄港の日程調整など、「地域の活性化・賑わい」と「港湾利用者」との共存が課題である。

・クルーズ船お迎え時の費用は市の税金を負担している。自治体としては一定の経済効果を示すことが必要で、地域特性を生かしたオプショナルツアーの企画提案をしていきたい。

・日本のインバウンド観光の課題は消費拡大である。クルーズ客に地域の魅力を発信し、満足頂くサービスを提供して地域を活性化すること、リピーターに繋げることで、そのような視点での各地域のアピールが必要である。各地域の魅力を磨き上げながら、瀬戸内ブランドを作り上げていきたい。

・今後はアクションプランの実効性を高めることが重要である。旅行者の特性やターゲットに合わせたクルーズプランの提案が効果的と考えられる。例えば、(祭りなどの)日本らしさと世界遺産の連携など、日本の魅力を盛り込んだ観光コンテンツの発信・醸成が出来れば面白い。

各港アクションプラン作成による進め方



瀬戸内海クルーズ推進会議 第3回全体会議

5月23日に開催された「瀬戸内海クルーズ推進会議第2回全体会議(エリア会議との合同開催)」において、各港での目標・取組をとりまとめた「瀬戸内海クルーズ推進アクションプラン」を作成しました。その中で、各港での具体的な取組における強み・弱みの相互補完の可能性、各港や観光地の連携により相乗効果を発揮する観光プラン・モデルルートを検討していく必要性が確認されました。

令和元年11月12日(火)、「第3回全体会議」が開催され、「当推進会議によるクルーズ船誘致の活動報告」と「クルーズ船の情報収集活動」の現状について情報共有しました。その後、第2回の全体会議で作成した「瀬戸内海クルーズ推進アクションプラン」の状況を報告し、意見交換によって今後の行動方針(方向性)等を確認しました。

主な意見は以下のとおりでした。

- 【アクションプランの行動方針】
- ・世界遺産を「2つの共通テーマ」とし、連携してクルーズ誘致に取り組んでいきたい。
 - ・瀬戸内エリア全体のプランニングの中で、各港の特性や強み(玄関口・中継地・岸壁諸元・観光資源数・観光地までの距離や利便性)を踏まえ、必要な機能強化



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第3回全体会議 開催状況

瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの作成



各港のアクションプラン	瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの策定
<ul style="list-style-type: none"> ●岸壁諸元 ●誘致目標 (隻数、ターゲットとする客船) ●背後観光コンテンツ ●目標達成のための課題・解決策 など 	<p>【策定の目的】 瀬戸内海を囲む近畿・中国・四国・九州の関連自治体がこれまで以上に連携し、「広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上」を目指し、その取組を通じ「瀬戸内海全体でのクルーズの活性化」、「おもてなし等による地域のつながりの創出」、「地域観光消費の増加」を図ることを目的に策定。</p> <p>【アクションプランの内容】 今後の行動計画</p>

瀬戸内海クルーズガイド及びPR動画の作成	
<p>●各港ガイドの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸壁諸元・観光コンテンツ ・四季の見所・イベント一覧などを掲載 	<p>●瀬戸内海の「おすすめクルーズプラン」の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ※各港ガイドから作成した瀬戸内海の港を結んだプランとして作成 ※各港の魅力を掲載

広域連携による戦略的な誘致活動の実施	魅力的なクルーズプランの提案	戦略的な情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ○クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。 ※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社を招聘。 ※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施(併せて希望する社に対して現地視察を実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した「おすすめクルーズプラン」の提案。 ※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。 ※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ○船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。 ※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編集し、瀬戸内海クルーズ用に作成。 ○瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。 ○瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードグローバル(マイアミ)への参加。 ※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

目指すべき将来像

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上(瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて)

瀬戸内海クルーズ推進会議 誘致活動 第1弾

瀬戸内海クルーズ推進会議として、9月13日(金)、9月26日(木)〜27日(金)の計3日間でクルーズ船社5社への誘致活動を実施した。

《誘致期間中、参加自治体19により15港を紹介》

近畿エリア…4港への誘致活動を実施(参加自治体数5)

中国エリア…5港への誘致活動を実施(参加自治体数6)

四国エリア…3港への誘致活動を実施(参加自治体数4)

九州エリア…3港への誘致活動を実施(参加自治体数4)

ネットワーク活動支援

① 姫路港ふれあいフェスティバル(夏版)

■パイロットグループ/兵庫県、姫路市
 ■実施時期/令和元年7月14日(日)~15日(月・祝)
 ■実施概要/みなとのにぎわい創出を行なう場として国土交通省に登録されている「みなとオアシス姫路」の構成施設「飾万津臨港公園」及びその周辺において、地元の特産品やご当地グルメの提供、地域団体を中心としたステージ演奏等を催すとともに、姫路港旅客ターミナル周辺では、海上自衛隊、海上保安庁の艦船の一般公開やミニクルーズを実施し、身近な港として親しんでもらうイベントを開催した。



② 中四国・瀬戸内クルージングサミット幹事会

■パイロットグループ/三豊市、新居浜市、福山市、高松市、瀬戸内市
 ■実施期間/平成31年4月~令和2年3月末
 ■実施概要/前年に引き続き、瀬戸内海クルージングツアー商品化に向け、各種商談会に参加しながら、クルージング旅行の商品化を目指す。幹事会には瀬戸内海クルーズに携わっている事業者にアドバイザーとして入ってもらい、旅行会社や旅行者のニーズ、商品造成についてのノウハウ等の助言を受けるとともに、商談会のコーディネートをしてもらう。



個別活動支援

① 海のふれあい事業

■会員名/播磨町
 ■実施時期/令和元年5月25日(土)
 ■実施概要/公営のボート係留施設播磨フィッシャリーナを活用し、体験学習を通して海の知識を子どもたちに知ってもらうことを目的に、新島一周クルージング体験、ヒラメ稚魚放流と水生生物の展示、海上保安庁による海上安全講習会等を行った。



① ぶくやま港まつり2019

■会員名/福山市
 ■実施時期/令和元年11月16日(土)~17日(日)
 ■実施概要/市民の港や海に対する親しみや関心を高め、港と地域の振興に寄与することを目的として「ぶくやま港まつり2019」を開催した。練習船「銀河丸」の船内見学をはじめ、福山港周遊ミニクルーズ、港の見学会、ふれあい水族館、消防艇や車両の展示や港で働く巨大マシンのデモンストラーションを実施した。



瀬戸内海活性化活動支援報告

実施日	クルーズ船社	相手方	参加自治体とPR港		
9/13(金)	A社	支社長 営業部長 アシスタント マネージャー	九州エリア 中国エリア	佐伯港 広島港 尾道系崎港 福山港	佐伯市 広島県 広島県 広島県
	B社	支社長	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	堺泉北港 姫路港 和歌山下津港 尾道系崎港 松山港 宇和島港	大阪府、堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 松山市 愛媛県、宇和島市
	C社	日本地区 セールスマネージャー	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	堺泉北港 姫路港 和歌山下津港 尾道系崎港 松山港 宇和島港	大阪府、堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 愛媛県、松山市 愛媛県、宇和島市
9/26(木)	D社	営業グループ 次長	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	大阪港 堺泉北港 和歌山下津港 宇野港 呉港 尾道系崎港 新居浜港	大阪市 大阪府 和歌山県 岡山県、玉野市 呉市 三原市 新居浜港務局
			近畿エリア 中国エリア 九州エリア	大阪港 宇野港 下関港 別府港	大阪市 岡山県、玉野市 下関市 別府市
9/27(金)	E社	ビジネス デベロップメント マネージャー	近畿エリア 中国エリア 四国エリア 九州エリア	堺泉北港 和歌山下津港 宇野港 尾道系崎港 松山港 宇和島港 新居浜港 下関港 別府港	大阪府 和歌山県 岡山県、玉野市 尾道市 愛媛県、松山市 愛媛県、宇和島市 愛媛県、新居浜港務局 下関市 大分県、別府市



【クルーズ船社からの主な意見】
 ・今後さらに発着地の多様化を検討する。
 ・テーマ性を持たせて寄港地を結ぶ連携したコース提案をして欲しい(※単発港で情報を挙げては本社には届かない)。
 ・どのエリアにどの様な国宝があるのか分かる資料を提供して欲しい(※外国人には国宝が響く)。
 ・寄港地決定に一番効果的な方法は本部の寄港地決定権者を招聘して現地を見せること。英語による動画作成も効果的。
 ・イベント、食など地場の特性を活かしたものを提案頂くことが有難い。
 ・寄港地で食材を仕入れたいときのサポート体制を確立して欲しい。
 ・瀬戸内海でも小型船でしか行けない離島周遊コースの造成を図りたい。



■瀬戸内海クルーズ推進会議 誘致活動 第2弾
 ○第1弾誘致活動に引き続き、瀬戸内海に関心をいだけた船社に対し、誘致活動の第2弾として中国エリアに船社を招聘し誘致活動を実施しました。外国のクルーズ船社を中国地方整備局にお迎えし、令和2年1月21日(火)~22日(水)の2日間に渡り、自治体と連携し誘致活動を行いました。
 ○初日、商談会では、各自自治体が離島観光をテーマに体験やグルメについてPRを行いました。
 ○2日目、港湾業務艇(りゅうせい)で広島〜呉〜尾道〜大三島〜笠岡諸島をめぐる、多島美も含め寄港地に立ち寄り観光地を実体験する、瀬戸内周遊クルーズを企画しました。
 【参加自治体】広島県、呉市、尾道市、岡山県、笠岡市、兵庫県、姫路市、南あわじ市、神戸市、小豆島町、香川県、愛媛県、松山市、佐伯市



クルーズ船誘致活動支援

①第1回クルーズセミナー in 尾道

会員名/尾道市
 実施時期/令和元年11月4日(月)
 実施概要/広島県尾道市の尾道糸崎港へのクルーズ船誘致活動の一環として、市民等に対してクルーズ旅行の魅力を発信することを目的にセミナーを開催した。マーキュリートラベル株式会社東山真明氏、テレビ番組でおなじみのクルーズライター上田寿美子氏を招いて講演は盛り上がりを見せた。



セミナーの様子

①「カレドニアンスカイ」寄港歓迎イベント

会員名/宇部市 実施時期/令和元年5月5日(日)
 実施概要/「カレドニアンスカイ」がゴールデンウィークに宇部港へ初寄港した。市長参加の船内式典では初寄港を記念する盾が交付された。また、岸壁ではおもてなしとして地元オリジナルキャラクターや地元有志によるお出迎えとお見送りを行い、日本酒「真」の試飲ブースを設けるなど好評だった。



ゆるきゃらによるお出迎え

日本酒「真」試飲ブース

初寄港船内式典

②「にっぽん丸」出港歓迎行事

会員名/小豆島町 実施時期/令和元年5月16日(木)
 実施概要/クルーズ客船「にっぽん丸」が「新緑の九州・瀬戸内 島めぐりクルーズ」横浜港発着クルージングを実施し、小豆島に寄港した。寄港歓迎行事として、地元保育園児による鼓笛演奏及び上陸記念品の手渡し、また、地元有志によるお出迎え及び客船への寄港記念品の贈呈、簡易観光案内所の開設を行った。



地元幼稚園児によるお出迎え

③カレドニアンスカイ出港歓送行事

会員名/兵庫県・姫路市 実施時期/令和元年6月10日(月)
 実施概要/クルーズ船「カレドニアンスカイ」は、日本海側の港から韓国、瀬戸内海の各港を経て、6月10日午前8時に姫路港に入港した。乗客約100名がチャーターバスで姫路城、日本庭園好古園の観光に向かう際に、ご当地キャラの「セーラーはばたん」、「しろまるひめ」が見送りし、記念撮影を行った。観光を終えた乗客と甲冑を身につけた「甲冑侍」との記念撮影も行った。歓送式典では、船長への花束贈呈後、和太鼓演奏を披露し、出港にあたっては市民、ご当地キャラが出港を見送った。



船長への花束贈呈

和太鼓演奏

④マースダム寄港歓迎イベント

会員名/香川県 実施時期/令和元年8月3日(土)
 実施概要/香川県高松港のクルーズ客船「マースダム」の寄港に際しては、船会社及び乗客には、地元の魅力はもとより、港あげての「歓迎」の意を伝えるため、歓迎イベントとして、JAZZ演奏、讃岐うどんの振る舞いを行った。お見送りイベントとしては地元高校生によるマーチングを行った。



JAZZ演奏

高校生によるマーチング

⑤ダイヤモンド・プリンセス寄港歓迎イベント

会員名/和歌山市 実施時期/令和元年8月16日(金)
 実施概要/和歌山市和歌山下津港のクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」が初寄港しました。和歌山の魅力を広く知ってもらい、瀬戸内海全体の人気を高めることを目的として、地域全体でお出迎え・お見送りのおもてなしイベントを開催。地元の紀州よさこい演舞や和歌山発祥の武道である合気道の演武などを披露した。



紀州よさこい演舞

合気道演舞

⑥ぱしふいっくびいなす寄港歓迎イベント

会員名/玉野市 実施時期/令和元年11月3日(日)
 実施概要/クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」が宇野港発着で国内クルーズを行った。出港時に出港イベントとして、テープ投げ、風船飛ばし(バルーンリリース)等のおもてなしイベントを実施し、岡山県ひいては瀬戸内海全体の振興を図った。クルーズ客船からも、現地のおもてなしに感謝された。



バルーンリリースとテープ投げの様子

⑦ぱしふいっくびいなす寄港歓迎イベント

会員名/福山市 実施時期/令和元年11月16日(土)
 実施概要/広島県福山港のクルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」の寄港(鞆の浦沖泊)に際しては、歓迎イベントとして、乗客には地元こども園による太鼓の演奏、保命酒甘酒、ちくわのふるまいや対瀬楼では琴の演奏を行った。また、船会社には散策ガイドとの調整を行った。



歓迎イベントの様子

⑧にっぽん丸寄港歓迎イベント

会員名/坂出市 実施時期/令和2年1月9日(木)
 実施概要/坂出港の「にっぽん丸」寄港にあわせ、観光案内所および土産物販売ブースを設けた。おもてなしイベントとして鴨川福神太鼓保存会による歓迎太鼓を披露。綾坂出市長から乗船者への歓迎挨拶やミスさかいによる船長への花束贈呈や船長から市長へ記念品贈呈式も行った。



歓迎イベントの様子

後援活動報告

①「第8回豊稔和太鼓フェスティバル」

主催 豊稔和太鼓フェスティバル実行委員会
 期間 令和元年10月20日(日)
 概要 広島県内各地で活動する、和太鼓団体による和太鼓共演。宮司による広島県産品の豊稔祈を広島みなと公園にて実施した。



和を基調としたバンド演奏



和太鼓打ちの様子



②第1回クルーズセミナーin尾道

主催 尾道市、広島県東部港湾振興協会
 期間 令和元年11月4日(月)

概要 尾道港へのクルーズ客船誘致活動の一環として、クルーズ旅行の魅力発信及びクルーズ客船誘致の機運醸成を目的として、広島県尾道市で開催した。

③令和元年度瀬戸内クルーズセミナー

主催 瀬戸内海観光連携推進会議
 期間 令和元年12月5日(木)
 概要 アジア地域での外国クルーズ客船を瀬戸内海エリアに誘引し、外国人旅行者もこのエリアに取り込んで行く方を地域が検討していくこととなることを目的に福岡県福岡市で開催。



昨年度香川県高松市開催時写真





第13回 瀬戸内海首長サミット

～瀬戸内・海の路の災害時相互応援の連携強化について～

令和元年5月31日(金) ANAクラウンプラザホテル宇部(山口県宇部市)

● 瀬戸内海首長サミット参加市町



防府市長 池田 豊

昨年、大島大橋が船舶事故により破損し住民生活が多大な影響を受けたことが記憶に新しいが、そうした災害時にこそ海の路の重要性が再認識される。三田尻中関港は県の防災計画の中で防災拠点に位置付けられており耐震岸壁の工事も進めていただいている。海に面しているメリットをしっかりと活かし防災のネットワークづくりをしていきたい。また、首長同志が密接な関係を築くことこそが市民の安心・安全な生活につながるものと考えている。



光市長 市川 熙

災害時における迅速な対応、その後の復興支援に大切なのは、自治体同士の絆(つながり)と考える。首長サミットのような協議の場を通して、顔の見える関係を構築していくのが重要だと再認識した。光市は8キロもの自然海岸が残っており、海岸は国道へのアクセスも容易であるため、災害時に大量の物資を集積する貴重な箇所として機能果たすのではないかと考えている。



周防大島町長 椎木 巧

昨年、本町と本土を結ぶ大島大橋への外国船籍の大型貨物船の衝突事故により40日間の交通規制と断水を経験した。まさに、想定外の事故によるもので、一つの自治体では対応が非常に困難だと感じたところである。災害は、いつ、どこで、起こるかかわらないという中で、今後も災害時の相互応援の連携強化を一層進めることが必要だと考えている。



大竹市長 入山 欣郎

会長のときに東日本大震災があり、阪神淡路大震災の時に大竹市から物資を船で送ったこともあり、国土交通省の指導もいただいて災害協定の締結に取り組みました。大竹市では、良質で多量の水がありますが、市が所有する船が無く、平成30年7月豪雨、また周防大島町の断水でも、すぐに対応できませんでした。そのため、各自治体の資産、資材のリストを作成し、供給方法等も災害協定の中に盛り込んでいけたらと思います。



坂町長 吉田 隆行

昨年度の豪雨災害では、町全域が被災し甚大な被害を受けた。その際、発災直後より全国の行政、企業、団体、ボランティアより多くの支援を頂き、心から感謝とお礼を申し上げます。この災害では道路網がいかに脆弱であったかを痛感した。災害で道路等が寸断し、一地区が完全な孤立状態となり、海路にて物資を運搬したが、適当な港湾施設がなく物資の荷卸しに大変苦慮した。この経験から、非常時に物資の運搬荷卸しができる簡単な港、波止場等の整備ができる環境づくりを国の方で検討いただきたい。



呉市長 新原 芳明

昨年度の豪雨災害におきまして、国、自衛隊、地方公共団体、個人団体、あらゆる方面の方に助けていただき、大変感謝しております。陸上交通の機能が失われたことにより、人や物資を運ぶことが出来なくなったことから、海上交通の有効性を非常に強く感じました。港湾物流機能を強化することで近隣の町にも災害対応が可能となると考えております。



三原市長 天満 祥典

このたびの災害は、私どもにも、情報の収集体制や、発信方法、避難所の運営体制や災害廃棄物の処理対策など、多くの課題を投げかけるとともに、海からの支援活動について、その有効性・重要性をあらためて痛感させられた。そのため、本協議会の災害時相互応援に関する協定に基づく、防災対策推進活動支援事業を活用し、海ネット会員による連携と、情報共有を図る事により、防災ネットワークの機能強化に努めることについて、検討していきたいと考えている。



玉野市長 黒田 晋

災害時には情報共有をどのように行うかが課題。海のネットワークに加盟している自治体における災害時の状況や必要な支援を把握する場が必要であると思う。また、玉野市の宇野港では昨年の西日本豪雨で、倉敷市や総社市の被災者支援を実施した。港を持たない被災地に対しては、港町が拠点となって復興に携わる役割は大きい。



宇部市長 久保田 后子

災害は今年もやってくるという認識を持ち避難所の良好な環境づくりや備蓄品を充実させることは本市でも行っているがせっかくこのネットワークを活用し被災自治体と応援自治体が事例を共有できる場とするのも重要と考える。また、各自治体で作成している備蓄品の品目や数量のリスト化したものを常に更新させていくことや、さらには民間との協定で提供いただくなど、更なる備蓄品の充実を進めていくことを提案したい。



下関市長 前田 晋太郎

下関市はありがたいことに豪雨災害による被害は少なかった。防災対策について、下関市民の中には、災害は他人事だと感じている人が多く、防災メールを登録する市民も増えていない。今回お聞きした災害に関するこれだけの生々しい貴重なお話を、自分の言葉に換えて市民に伝えていくことで、市民の防災意識の向上に繋がってほしい。



津久見市長 川野 幸男

平成29年台風第18号により、津久見市内全域で浸水や土石流などによる甚大な被害が生じた。九州地方整備局には直ちにリエゾンやTEC-FORCEの派遣をしていただくとともに、各自治体の皆様には多大なご支援をいただいた。実際に災害が起きると、第三者の立場や相互の連携が重要だと痛感したところであり、本協議会における災害時の連携協定についても、これから手続きを進めていきたい。



佐伯市長 田中 利明

平成29年4月の市長就任後に、豪雨災害・南海トラフ大地震対策として防災局を立ち上げた。平成29年の台風18号災害では延岡市から支援を受け、平成30年の西日本豪雨災害では宇和島市・宿毛市へ職員を派遣し、災害時相互応援の強化を痛感した。今後は避難高台等のハード対策と併せ、ソフト対策として防災行政ラジオの普及、避難を意識した防災教育を小・中・高校生から徹底したい。



宇和島市長 岡原 文彰

昨年、第12回サミットが当市で開催され、その約1ヵ月後に7月豪雨が発生。早朝のわずか数時間で11名の市民の命が奪われ、翌日には浄水場が土石流で流され2地区で断水。1万5~6千人が影響を受けた。国の、公の大きな力と、民間の機動的な力を借りながら一つ一つ問題をクリアしていった。培ったノウハウ、経験を、顔の見える関係で平時から情報共有し、やるべきことを手前、手前でおこなうことが必要だと痛感して、我々も経験したことを伝えるときだと思っている。陸路であれ海路であれ重要性を強く認識している。ソフト面、ハード面を含めて防災対策には終わりが無い。こういった中で情報共有が必要。



坂出市長 綾 宏

香川県は災害が少ないということで住民意識を高めるのが一番大切である。また、香川県は全国初で水道を統一し、水道の応援で調整が出来るが、災害時に必要な物資が適切に運搬されることが重要である。揭示板は、適時適切な調運に大きな役割を果たす。市では外部講師により防災スペシャリストを養成、その養成されたスペシャリストが全職員へ教育し防災力を高めていくこととしている。



南あわじ市長 守本 憲弘

海ネットの防災ネットワークには期待するところが大きい。平成30年7月豪雨の際は、淡路島と本土・四国をつなぐ橋が全て通行止めになったが、海上ルートは機能していた。このような豪雨災害のほか、地震災害時にも、この海路を活用した支援経路も考慮する必要がある。今後、津波被災時の航路啓閉体制や、現在釣り公園として使用しているメガフロートの活用について考えていきたいと思います。



由良町長 畑中 雅央

災害時における相互支援体制に際して、首長による判断ももちろんあるが、より実効性の高い体制とするため、実務担当者である幹事会の総合調整機能等を強化していくことが必要。そのためにも各整備局単位で、各担当者間の合意形成と考え方などを共有する機会が必要ではないかと考えており、できるだけ小さいブロックの中で実務研修や説明会などを実施していただけたらありがたいと思う。



高石市長 阪口 伸六

平成30年7月豪雨の際、陸路断断により救援物資が届かないという状況で、海ネットの相互支援として海上ルートでの救援物資輸送を整備局に相談・調整し、「清龍丸」による物資輸送、入浴支援を被災地である呉市の方々に迅速に実施することができた。各首長の皆さんも、災害時にはお互い様という思いを持っていますから、アクションを起こすことが重要だと思います。